



▲明善中学校吹奏楽部の演奏で盛大な幕開け

「いいづら祭」が4年ぶりに開催されました。感染症によって開催を見合わせていた3年間で町会役員の交代をはじめとした住民を取り巻く様々な変化がありました。そのため、戸惑う場面も少なくありませんでしたが、住民で話し合い作り上げることとで困難を乗り越え、子どもからお年寄りまで楽しめたことで松原地区の団結力が深まったと感じています。

4年ぶりの「いいづら祭」

ふれあいのまち

# 松原かわら版

世帯数 1,263 戸  
人口 2,984 人  
高齢化率(65歳以上) 29.1%  
(令和5年9月1日現在)



1カ月の練習の成果を息の合ったダンスで披露



どのブースも大いに賑わいました



「いいづら祭に訪れた方からの」コメント

▼3年間いいづら祭ができなかったことで、前回のイメージが頭から抜けていたが、数時間で感覚が戻ってきた。浴衣などを着飾り、友達と楽しそうに話している姿を見ると、コロナ前のいいづら祭らしい光景が戻ってきたと感じた。

▼子どもたちそれぞれの楽しそうな姿を見て、また来年につなげていきたいと思った。

▼コロナ対策のため、食べ物を提供するブースはマスクを着用し、汗だくで頑張っている姿に感謝。

▼松原にこんなに人がいたのかと思うくらい賑わいだした。いいづら祭は人との繋がりに欠かせないものになっており、改めて松原は良いところだと感じた。

▼どのブースも活気があり、特に子どもが楽しめるブースは大人気だった。一方、19時以降はどっこも売切れとなり残念だった。

▼天気が心配な時間もあったが、今年は何とか乗り切れた。それにしても暑い！



町会連合会OB協力のもと、中学生ボランティアが大活躍



# まつばらのできごと

## ～子どもたちの様子～

### 8/2 子どものための健康食事講座「グミ作り」

松原の健康課題では、「食事速度の速さ」がたびたび指摘されています。そのため、食事速度に関連付けられる「よく噛む」についてグミ作りを通して学んでもらおうと保健師さんが企画してくれました。

よく噛むことのメリットをご家庭で報告し、実践してくれることを期待しています。



### 8/8 夏休み自然体験会



長野県の夏休みといえど山!  
山の日制定のセレモニーが開催された場所であり、松本が世界に誇る山岳リゾート「上高地」を訪れました。

美しい緑や透明な川、澄んだ空気を存分に感じることで自然への感謝を考えるきっかけとなりました。

### 8/4 収穫祭～夏～

住宅地でなかなか土に触れる機会の少ない松原地区。小さいながらも公民館で畑を作り、収穫を体験しました。

じゃがいも、トマト、ナスなど採れたての野菜を使ったカレー作りに挑戦。大地の栄養をいただきました。



### 8/1～8/10 ラジオ体操旬間



子どもたちは夏休み! 期間中は、松原中央公園でみなぎる活力を分け与えてくれました。

来てくれた人数は、平均してなんと60人。皆勤賞となった24人には、公民館からささやかなプレゼントを贈りました。

## 避難所運営ゲーム「HUG」の体験

夏休み中の明善中学校で防災士を招き、HUGを行いました。各町会の三役と防災部員等の約50名での研修は、エアコンのない体育館で、換気と水分補給をしながらの厳しい環境でしたが、災害は季節も時間も選ばないという想定のもとの実施でした。

HUGはゲームという名前が付いていますが、中身は災害時における避難所運営の机上訓練です。6、7人ずつのチームに分かれて、避難所に訪れる様々な条件の避難者やできごとを順次処理していくもので、避難所の機能や役割を理解する体験型の学習プログラムです。

ゲームでは、カードに記載された避難者や物資の配給、市からの情報等が渡され、随時対応していきます。乳児のいる家族、病人連れの家族、足の悪い人、肉親の所在が分からないまま訪れた人、ペット連れのご家族等、様々な状況の人達が避難してきます。私たちのチームでは、できるだけ避難者個々の状況に合わせて、居住スペースを割り振ったつもりですが、途中でレイアウト的に問題が発生して、いく人かの方々に居住場所を移動してもらいました。90分ほどのゲームでしたが、各チームの反省会では多くの気付きが報告され、避難所運営の疑似体験の効果は絶大でした。

実際の発災時の状況を正確に予測することは不可能です。したがって定型的な避難所の運営ではなく、様々な状況に柔軟に対応できる避難

所運営が必要であり、このような訓練を繰り返して行っていくことが必要だと感じました。

今回の訓練で特に気になったのは、トイレの問題でした。下水道の本管の多くは電動のポンプを使って水分を移送しているのですが、地震発災時には水があっても水洗トイレが使えなくなる可能性があります。その場合、当初はポータブルトイレを使用し、その後、市により仮設トイレが設置されます。それぞれの設置場所や保守管理、プライバシーの確保など、これらは予め検討して決めておくべきです。さらに検討には女性や高齢者の意見をしっかりと把握しておく必要があります。

地震に備えて用意しておきたいもの。今回防災士から発災に備えて用意しておきたいものの資料をいただきました。その中でのは、履物でした。自宅の家財やガラス類が散乱してしまつた場合、しっかりと履物が無いと家の中を移動することも



先日、「蚊に刺されたかな」と思っていたら、赤く腫れて痒みが増してきました。いつもと違うと感じ皮膚科を受診したところ原因はブヨ!

ブヨは聞いたことがありませんが、実際に刺された記憶がなかったので驚きました。

ネットでブヨに刺されない為の対策を調べてみました。

ブヨを完全に駆除することは難しいので、刺されない為に徹底して防御するのが一番大切です。ブヨは暗い所を好み、濃い色の服に寄って

出来なくなりません。水や食料などの非常用持ち出しセットとは別に、夜間の地震に備えて、枕元に靴と靴下、軍手を用意しておくことが奨められています。

最後に、避難所は強いストレス環境になります。避難所には最低限の物資があり、個人の持ち込み物資も多少はあるかもしれませんが、しかし、もう一つ各人が必ず持参すべきものがあります。それは、思いやりと助け合いの気持ちです。もしもの時は、普段より大きめのポケットに、やさしい気持ちを詰め込んで避難するようにしましょう。



くる習慣がある為、明るい服を着て寄せつけないことです。

他にも対策方法で、ブヨは天敵のオニヤンマを認識して近寄らなるといわれていますので、オニヤンマの模型のグッズを付けることで虫除け効果があるみたいです。オニヤンマのグッズの効果は半信半疑ですが、試してみてもいいかもしれません。

たくさんある虫除けアイテムの中から自分に合った物を選んで、ブヨや蚊に刺されない快適な生活を過ごしたいです。

(編集委員)